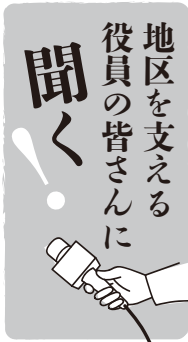


城北



令和4年7月1日現在	
総世帯数	3,784
総人口	7,884
男	3,776
女	4,108



地区を支える
役員の皆さんに

聞く

住みよい町づくり協議会



会長
上条 晴康

今年から「住みよい町づくり協議会」の会長になりました。上条晴康です。

この協議会は、城北地区の最大の組織であり、城北地区を動かしている人たちの集合体と言えてでしょう。総勢約55人であり、メンバーは安全の部会・健康の部会・福祉の部会の3部会に配属されています。

協議会の大きな目的は、「城北地区を、誰もが住み慣れた家や地域で安心して暮らし続けることができる地区にする」ことです。(認知症になっても暮らし続けられる地区・顔が見える関係の、絆の深い地区)



安全の部会長
古田 健司

本年度より安全の部会、部会長を務めます古田健司です。コロナ禍のため思うように活動できない状態が続きましたが、本年度は、避難所開設の方法を皆さんと考えていこうと思います。

避難所については、開智小学校は中央地区とともに進めています。また深志高校は鼎談深志の枠組みで開設のワークショップが行われていますが、運営委員会の組織等関連する地区と共同で進めていきます。また、要援護者の避難場所は、城北公民館ですが、それだけでは足りないという問題があります。



健康の部会長
窪田 隆彦

健康の部会、部会長の窪田隆彦です。

一言で健康と言っても何となく頭をかしげてしまうので、はなから心身共に、よく言われますね。体の健康は、病気がないこと・食事がおいしくできること・身体が丈夫なこと・ぐっすり眠れること。不安や悩みがないことと言われています。

不安や悩み事があると、ぐっすり眠れず、食生活も乱れ健康な体でなくなってしまう。健康を脅かす因子・それは孤立と言われています。福祉の部会・安全の部会の協力も得て、人と人と繋がる場づくり、本音を話せる場づくりを進め、助け合い、支えあいが自然にできる町づくりを目指したいと思っています。

皆さまのご協力をお願いします。

福祉の部会長、三村伊津子です。

福祉の部会では、カフェ「すいれん」を平成29年11月、沢村と白金に開店しました。お蔭様で今年の5月10日に100回となり、お祝いの会を開催しました。40人のボランティア育成も含めて、その間の絆づくりが今に繋がっています。お客様・スタッフの居場所である「すいれん」に、皆様も是非お出かけください。

また、「いざという時に助け合える城北地区をめざす」をテーマに、地域ケア会議を4回開催しました。信大の井上先生やゼミの学生にも参加していただき、「フレイルや認知症の生きづらさを我が事として考える」事例を基に、個人・グループワークを行い、話し合いをできました。

今後は、実態調査として町会長を始めとした役員アンケートを行い、9月から高齢者のアンケートを実施し、命を守る事を考えていきたいと思っています。

「カフェすいれん100回記念の集いが開催される」

5月10日、沢村町会公民館に80余名の関係者を集め記念の会がひらかれました。

平成29年に福祉の部会が「認知症にやさしいまちづくり」を推進するため開設し、令和元年からは三村伊津子さんを中心に立ち上げたボランティアグループ「メイツ」の皆さんが運営にあたり毎月夫々各一回、沢村と白金の公民館で開催してきました。

集いは、支援してこられた町会連合会や城北ひろばなど数々の代表者からのユーモア溢れるご挨拶について記念の催しとして奇術などを行い、締めくくりにアコーディオン伴奏に乗ったいつもの大合唱が会場に響き渡りました。

お年寄り達の元気の源を創り出してきたボランティアの皆さんに敬意を表するとともに、多くの地域の人たちに参加を促したいと思いをしました。



▲奇術を楽しむ参加者

ぐるっと城北 施設訪問

松本市北ふれあいホーム

北市内線、沢村バス停隣「おひさまベーカリー」の旗が目を引く、就労継続支援B型事業所、所長の黒田明浩さんと指導員の阿部和美さんに話を伺いました。平成24年4月設立、松本市から指定を受けている社協の運営施設です。所長を始め職員11人が20〜60代の利用者26人を見守っています。

一般就労が難しい精神に病気を抱えた方が、社会に出て働いてみたい、働く楽しさ、自分が必要とされていることを感じたい、そんな思いを持って基本的な生活習慣を身につける為に、毎日通って作業をしています。作業内容は商工会報発送作業、企業からの受託作業、パン製造、販売など。パン作りが好きな人、販売が好きな人、部品作り作業が好きな人、自分の得意なことを伸ばせる



▲北ふれあいホーム外観



▲おいしい手作りパン

よう、支援しています。病気を抱えながら励む利用者たちと一緒に、気長に地道に指導をしている職員の皆さんは、やがて社会に出て行く日を心待ちにし、就労できた時は我ごとのように喜び、やりがいを感じる頼もしい存在です。館内はパンの焼ける香りが漂って、おいしいパン作りにも力を入れていきます。そんな中黙々と作業をする利用者たちを支えるのは、相談支援事業所、病院、ハローワーク、グループホーム、家族などの多数の方々です。新型コロナウイルス感染症で施設でも大きな影響が出ている中、パンの製造・販売には十分な感染予防対策を取っています。城北公民館にも月2回の訪問販売があります。今、旬のパンは宇治抹茶クリームパン。おいしいですよ！

文化部講演会

極楽をのぞいてみましょう



昨年2月に講師の後藤芳孝さん(田町町会)による「とも地獄をみませんか」と題した講演会が開かれ好評でした。後藤講師から「地獄だけみて終わりでは不十分なので、極楽を今年はそのぞいてみましょう」とのお話があり、コロナ禍で約3ヶ月遅れましたが5月に開催され「聞いて極楽」のお話をお聞きしました。

まず極楽とはその住人には心身の苦しみがまったくなく、もろもろの楽しみを受けることから、そう呼ばれるそうです。極楽浄土には、七重に張りめぐらされ玉垣や、飾り網、並木がある。それらはすべて四つの宝石からできて、あらゆる所を囲んでいきます。また、七宝の池があり、絶えず音楽とそよ風が美しい音色を奏でて、大地は黄金で昼夜にそれぞれ三度ずつ、天から曼荼羅華の花がふりそそいでいます。さて、このような極楽にはどうすればいけるのかと、誰もが思います。少しの善行のちからなどでとてもいけません。仏を信ずる男女が、阿弥陀仏の無量の智慧と慈悲のはたらきを聞いて、絶えることなく七日間念仏を唱え心に乱れがなければ、その人が最期のとき阿弥陀仏は極楽のさまざまな聖者方を引き連れて、その人の前に姿を現し極楽浄土に往生することができるとです。この世では四苦八苦という言葉があるように、苦しみの苦のない世界へ何とかいきたいのが人情です。でも地獄も極楽も誰も見た人はいません。はたして極楽の生活はいいことづくめなのでしょうか。「人生を精一杯生きて、健康で地域に皆さんとの和を保ち、是非極楽にいきたいと、淡い夢をみているときこそが極楽なのかもしれない」と、後藤講師は結びました。



▲極楽からは阿弥陀如来が迎えに来ます。

令和4年度 公民館委員名簿

(◎)部長、(○)副部長

企画運営委員会

体育部

- 小岩井 成人
上条 晴康
上原 偉敏
小澤 基裕
塚田 きよ子
小林 英一
岡野 美代子
窪田 隆彦
清水口 勝
細萱 康二
大森 茂
竹内 美佐子
塩沢 貞子
後藤 充子
土屋 満千代

館報編集

文化部

- ◎大月 悦子
○横山 修三
丸山 守寿
伊藤 千津子
須澤 すえ美
吉見 隆男
宮下 富美子
◎松田 榮子
○後藤 芳孝
○須澤 仁
深澤 久雄
大月 節子
梅津 雅彦
大岩 隆
大月 ひろ子
吉江 隆
菊池 貴子

【記録班】

青年部

- ◎守安 威象
尾日向 智子
田中 浩
福井 節子
柴田 直明
丸山 幸子
◎伴 知由紀
○清水 亮
青木 克憲
今里 正作
代田 幹彦